

体験の風を
おこそう

令和元年度

所 報

—事業の成果と記録—



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家

はじめに

国立諫早青少年自然の家は、国立第3番目の少年自然の家として設置されて以来40年を過ぎ、50年さらにその先に向けた歩みを始めたところです。

国立施設として、また、諫早ならではの良いものはしっかりと堅持、継承しつつ、急激な社会状況の変化の中で、良いものは取り入れ新しい諫早の顔とする積極進取の姿勢も忘れないことが大切ではないかと、日々臨んでいるところです。

この度、令和元年度の当所の事業運営及び管理運営の活動の中から、当所として特に事業成果の発信として、また、記録すべきものについて取りまとめました。関係の皆様には、ご一読いただきご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸甚に存じます。

まず、当所では従来から中学校進学時の人間関係の変化に注目し、この不安要因の解消を図るため、PA（プロジェクトアドベンチャー）の手法等を活用したモデルプログラム「小6交流キャンプ」の開発に取り組んできたところです。今年度は、これを基に自己肯定感の向上を目的として、中1ギャップ対応プログラム「スタートアップ・キャンプ」に取り組みました。このような機会を得ることができたことは当所として幸いであり、今後、青少年教育施設・団体・学校等に提供するプログラムとしての開発・普及に期待するところです。

また、青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ地域力向上等を図る事業として企画・実施した事業として、特に「木育」「ジオ」「防災」という切り口のものなどについては、関係団体や大学、地元自治体等の協力を仰ぎ連携を深め、より良い効果を上げることができたと感謝するばかりです。

更に、幼児期・児童期は「生きる力」の基礎を育む大事な時期であること、また、昨今のキャンプブームということなどから、今年度から毎月第3日曜日を「キャンプの日」として決めました。デイキャンプや前日からのテント泊体験などにより、今では「家族の恒例行事になっています」という声をいただくなど、未就学児のいる家族層などにも利用が広がる兆しが見えてきたところです。

今年度は新型コロナウイルスの発生による2月28日から3月24日までの受入休止措置をはじめ、繁忙期（7～8月）の台風接近・大雨の影響や、中国の青年訪問団（400名：2泊3日利用）の企画中止により、多くのキャンセルなどにも見舞われましたが、当所の事業等が質的にも量的にも充実したと実感できるのも、管理運営にあたってのご指導をいただいた皆様、地元諫早市をはじめ近隣自治体、関係の団体、その他多くの組織、ボランティア、地域の皆様方のご支援、ご協力があったからこそです。関係の皆様には改めて心より感謝申し上げます。

令和2年3月 国立諫早青少年自然の家 所長 内山祐二郎

<目 次>

I 教育事業の報告

1. 地域力向上事業（文部科学省委託事業）…………… 2
アドベンチャー教育の手法を基盤とした「中1ギャップ対応プログラム」開発事業
「スタートアップ・キャンプ」
2. 普及啓発事業（他施設との連携事業）…………… 10
「木育キャンプ」
3. その他の事業…………… 14
令和元年10月からスタート!! 毎月第3日曜日は「キャンプの日」
4. 事業実績一覧…………… 17

II 事業・管理運営の記録

1. 令和元（平成31）年度利用実績
 - (1) 利用者数・利用団体数・稼働率…………… 18
 - (2) 平成24年度から令和元(平成31)年度までの利用者数・利用団体・稼働率… 19
 - (3) 団体種別利用状況…………… 20
 - (4) 県別利用状況…………… 21
 - (5) 県ごとの団体種別利用実績
 - (6) 長崎県内市町ごとの利用状況…………… 22
 - (7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績
 - (8) 宿泊日数別利用状況…………… 23
 - (9) 利用者アンケート
 - (10) 活動プログラム別利用状況
 - (11) 開所からの利用状況…………… 24
 - (12) 傷病発生状況…………… 25
2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために…………… 27
（主な工事・施設保全・物品購入の状況）
3. 施設業務運営委員…………… 30
4. 組織図・職員名簿…………… 31

III 参 考

- 令和2年度事業計画…………… 32

I 教育事業の報告

1. 地域力向上事業（文部科学省委託事業）

アドベンチャー教育の手法を基盤とした 「中1ギャップ対応プログラム」開発事業 「スタートアップ・キャンプ」

令和元年12月25日（水）～27日（金）

【担当：山口 圭吾・大嶋 和幸】



（1）事業の背景

文部科学省の平成26年度「学校基本調査」によると、最近5年間減少傾向にあった小中学校の不登校が増加に転じているそうです。特に中学校での増加幅が大きく、その一因として中学校進学時の急激な変化になじめない“中1ギャップ”が指摘されています。

このような中、当所では、青少年を取り巻く今日的課題の一つである「中1ギャップ」に対応するため、中学校進学時の人間関係の変化に着目し、この不安要因の解消を図るため、人間関係づくりに効果的なプロジェクトアドベンチャー（以下、PA）^{*1}の手法等を活用したモデルプログラム「小6交流キャンプ」の開発に取り組んできました（平成29・30年度）。

このPAとは、「自己との対峙」「葛藤」「挑戦」といったアドベンチャーの特性を生かした教育手法であり、積極的に挑戦する意欲や姿勢、困難な状況を乗り越えることにより得られる達成感など、自己肯定感の向上が期待できるものです。

そこで今年度は、中学校という新しい環境を目前とした小学6年生の心理的特性に着目し、「小6交流キャンプ」を基に自己肯定感の向上を目的とした事業「スタートアップ・キャンプ」を実施・検証しました^{*2}。

また、今後、モデルプログラムの他施設等への普及を目指すにあたり、PAの特色であるロープスコース^{*3}を用いないプログラムの開発は不可欠であると考え、実施する事業ではロープスコースを用いないこととしました。

*1 プロジェクトアドベンチャー（PA）とは、アドベンチャーの特性である「自己との対峙、葛藤、自分自身に対する挑戦、仲間との協力、成功体験、達成感」などを生かし、人間が成長するための「気づき」を効果的に体験するための手法として、1971年にアメリカで開発されたもの。学校教育や社会教育、企業研修などの様々な場面で活用されています。

*2 文部科学省の2019年度委託事業「体験活動推進プロジェクト」にある「自己肯定感向上プロジェクト」として実施しました。

*3 ロープスコースとは、丸太やロープ、ワイヤーで作られた障害物コースであり、PAの特色です。その設置や維持管理の経費と指導者の養成・確保が必要となるため、PAが普及しづらいという一面もあります。

写真はロープスコースの一例



(2) 事業の趣旨

青少年を取り巻く今日的課題である「中1ギャップ」に対応するため、関係機関と連携して、モデルプログラム「小6交流キャンプ」を開発・普及します。

(3) 事業の進め方

1) 実施体制

青少年教育団体関係者，学校教育関係者，関係省庁担当者，青少年教育に関する有識者等で構成する推進体制を整備し，自己肯定感が向上するための事業の検討やアンケート調査の分析・評価等を行いました。

<推進会議 構成員> 順不同・敬称略
小原 達朗 (長崎大学 名誉教授) ※委員長
内野 成美 (長崎大学大学院教育学研究科 准教授)
小林 真一 (国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター参事・広域主幹)
高田 敏彦 (諫早市少年センター 所長)
瀧 直也 (信州大学教育学部 講師)
力丸 資 (国立諫早青少年自然の家 次長)
山口 圭吾 (国立諫早青少年自然の家 企画指導専門職)

2) 事業計画

月 日	内 容
7月11日	第1回推進会議 ○ 事業の趣旨・目標・スケジュール・役割等の確認 ○ 本事業における自己肯定感の定義・効果測定尺度・試行事業のプログラムに関する協議 ※以降，引き続き担当の委員と検討を行う
10月	予備調査の実施
11月10日	中間検討会 ○ 試行事業のプログラム案に関する協議
12月25日～27日	試行事業の実施 ○ 委員による事業の視察・評価
2月5日	第2回推進会議 ○ 調査結果の分析・検証，事業のまとめ

(4) 事業の実施

1) 効果測定尺度の検討・開発

長崎大学大学院教育学研究科 内野成美准教授のご協力のもと，中学校入学前の不安・期待に関する心理測定尺度の開発に取り組みました。

① 予備調査

中学校入学前に対人関係に関して抱く思いについて，「心理測定尺度集IV (出版：サイエンス社)」を参考にアンケートを準備しました。準備した質問は21項目で，すべて4件法「全然そう思わない」「そう思わない」「少しそう思う」「とてもそう思う」で回答を

求めることとしました。長崎県内の小学校 13 校にご協力いただき、予備調査を実施し、小学 6 年生 933 名（男児 464 名，女児 469 名）の児童からの回答を得ました。

② 因子分析

中学校入学前に対人関係に関して抱くイメージ 21 項目について因子分析を行った結果、4 因子を抽出しました。

第 1 因子は、「仲間から浮いているように見られたくない」「仲間はずれにされたくない」「誰からも嫌われたくない」「できるだけ敵は作りたくない」「みんなと違うことはしたくない」「一人でいることで、変わった人と思われたくない」の 6 項目であり、「拒否不安」と名付けました。

第 2 因子は、「中学校では新しいことにチャレンジしてみたい」「中学校では難しいことにもチャレンジしてみたい」「中学校生活が楽しみだ」「失敗しても前向きに考えることができる」「自分は頑張っていると思う」「学校が好きだ」「学校でクラスメイトと話すのが楽しみだ」の 7 項目であり、「自己や学校への肯定感」と暫定的に名付けました。

第 3 因子は、「違う小学校の子に会えるのを楽しみにしている」「できるだけ多くの友達をつくりたい」「中学校では新しい友達をつくりたい」「ほかの人と同じように新しい友達ができると思う」の 4 項目で、「新しい友人関係への期待」と名付けました。

第 4 因子は、「ちがう小学校の子と仲良くなれるか不安だ」「親しい友人ができるかどうか心配だ」「まわりの子からいじめられないか心配だ」「新しいメンバーともうまくやっていけると思う（逆転項目）」の 4 項目であり、「新しい友人関係への不安」と名付けました。

このように、中学校入学前に抱く対人関係に関する項目は、「拒否不安」「自己や学校への肯定感」「新しい友人関係への期待」「新しい友人関係への不安」の 4 つで構成されることが明らかとなりました。

質問項目は以下の 21 項目で、因子分析を行った結果、次の 4 因子に分けられました。

【第 1 因子：拒否不安】

- ・ 仲間から浮いているように見られたくない
- ・ 仲間外れにされたくない
- ・ 誰からも嫌われたくない
- ・ できるだけ敵は作りたくない
- ・ みんなとちがうことはしたくない
- ・ 一人でいることで、変わった人と思われたくない

【第 2 因子：自己や学校への肯定感】

- ・ 中学校では、新しいことにチャレンジしてみたい
- ・ 中学校では、むずかしいことにもチャレンジしてみたい
- ・ 中学校生活が楽しみだ
- ・ 失敗しても前向きにとらえることができる
- ・ 自分はがんばっていると思う
- ・ 学校が好き
- ・ 学校で、みんなと話すのが楽しみ

【第3因子：新しい友人関係への期待】

- ・ちがう小学校の子に会えるのを楽しみにしている
- ・できるだけ多くの友達を作りたい
- ・中学校では、新しい友達を作りたい
- ・他の人と同じように新しい友達ができると思う

【第4因子：新しい友人関係への不安】

- ・ちがう小学校の子と仲良くなれるか不安だ
- ・したい友人ができるかどうか心配だ
- ・まわりの子からいじめられないか心配だ
- ・新しいメンバーともうまくやっていけると思う

2) 試行事業「スタートアップ・キャンプ」の実施

① 趣旨

中学校進学を目前に控えた子供たちが、自然体験活動などを通して自分のことを肯定的に捉え、新しいことや困難なことにもチャレンジしようとする意欲を高め、よりよい新生活を送れるようにします。

② 対象・参加人数等

対象は長崎県内及び佐賀県鹿島市内の小学6年生としました。
参加者数は53名で、うち男子18名、女子35名でした。

③ プログラム

プログラムは以下の日程で展開しました。

1 日目	2 日目	3 日目
15:00 受付	6:30 起床	6:30 起床
15:40 始まりの会	7:30 朝食	7:30 朝食
16:30 活動①	9:00 活動③	8:15 清掃・片付け
18:10 夕食	12:00 昼食	9:20 活動⑤
19:30 活動②	13:00 活動④	11:30 昼食
21:00 入浴	18:10 夕食	12:30 終わりの会
22:00 就寝	19:30 活動⑥	14:00 終了
	21:00 入浴	
	22:00 就寝	

※活動①～⑥の詳細は次ページに記載

④ 活動の様子



【始まりの会、チャレンジ体験】

始まりの会で3日間のテーマが“チャレンジ”であることを伝えられた子供たちは、最初に「階段ジャンプ」をしました。初めは楽に跳んでいた階段も、少しずつ恐怖感に襲われ、ある段を境に跳べなくなりました。この活動を通して、子供たちは自身の勇気の限界を知ることができました。



【活動① アイスブレイク】

まだ知らない人ばかりで緊張している子供たちの心をほぐすために、自己紹介を兼ねてアイスブレイクゲームをしました。大きな声を出して活動することで、少しずつ表情が明るくなっていきました。



【活動② 目標設定】

キャンプ終了時になりたい自分を思い浮かべ、それに向けて3日間でどんなチャレンジをするかを各自で考えました。この目標は、各班で共有し、全員が目標を達成するための班の約束事を決め、ゲームに取り組みました。



【活動③ イニシアティブゲーム】

2日目からは、事前アンケートで同じような回答した子供たちを集めて新しい班を編成しました。

新しい班で個人目標を共有し、班の約束事を決めてから、「アシッドリバー」など、協力が不可欠なゲームをしました。ゲームをクリアするためにはどうしたらいいのか、班員同士で相談をしながら取り組んでいました。



【活動④ 岩場登り】

午後からは、水量の減った沢を利用して岩場登りにチャレンジしました。どのルートを通って岩を越えるかは、各自で決めました。時には協力しないと越えられない岩場があり、声を掛け合って、乗り越えていました。



【活動⑤ 焚き火】

夜は、野外炊事場で焚き火を囲んで振り返りをしました。焚き火の淡い光の中で、子供たちは少しずつ心を開いていきました。

振り返りの後は、スモアを食べて楽しみました。



【活動④ トラストゲーム】

3日間の総仕上げとして、仲間の信頼と自身の勇気を示すトラストゲームをしました。4種目あるゲームから1つを選んでチャレンジしました。1回では自分が納得できる結果が得られず、再チャレンジをする子供もいました。子供たちは、ゲームを通して友情や勇気を感じていました。



【振り返り、終わりの会】

最後に、キャンプ前後の気持ちの変化（成長）を班の仲間と振り返りました。3日間のキャンプを終えた子供たちからは、中学校生活への期待と、チャレンジをやり遂げた自信があふれていました。

この3日間の体験を生かし、子供たちが充実した中学校生活を送れることを、スタッフ一同願っています。

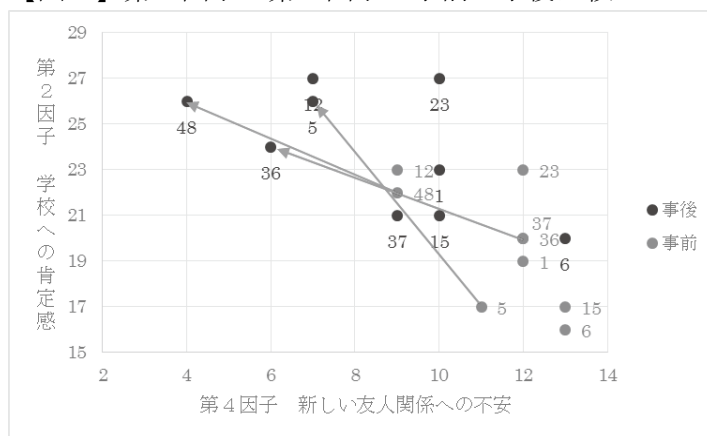
3) 試行事業「スタートアップ・キャンプ」の効果測定（本調査の実施）

開発したアンケートをキャンプの開始時及び終了時に実施し、その分析をしました。調査の結果、スタートアップ・キャンプの実施前後では、「新しい友人関係に関わる期待（第3因子）」と「新しい友人関係への不安（第4因子）」で有意な差が見られました。【表1】特に「新しい友人関係への不安（第4因子）」が大きく、「自己や学校への肯定感（第2因子）」が低かった子供たちほど、不安が小さくなり自己や学校への肯定感が高まったことがわかりました。【図1】

【表1】 キャンプ実施前後での各因子の平均点

	第1因子 (拒否不安)	第2因子 (自己や学校への肯定感)	第3因子 (新しい友人関係への期待)	第4因子 (新しい友人関係への期待)
事前	3.24	3.25	3.44	2.67
事後	3.18	3.41	3.65	2.34
差	-0.06	+0.16	+0.21	-0.33

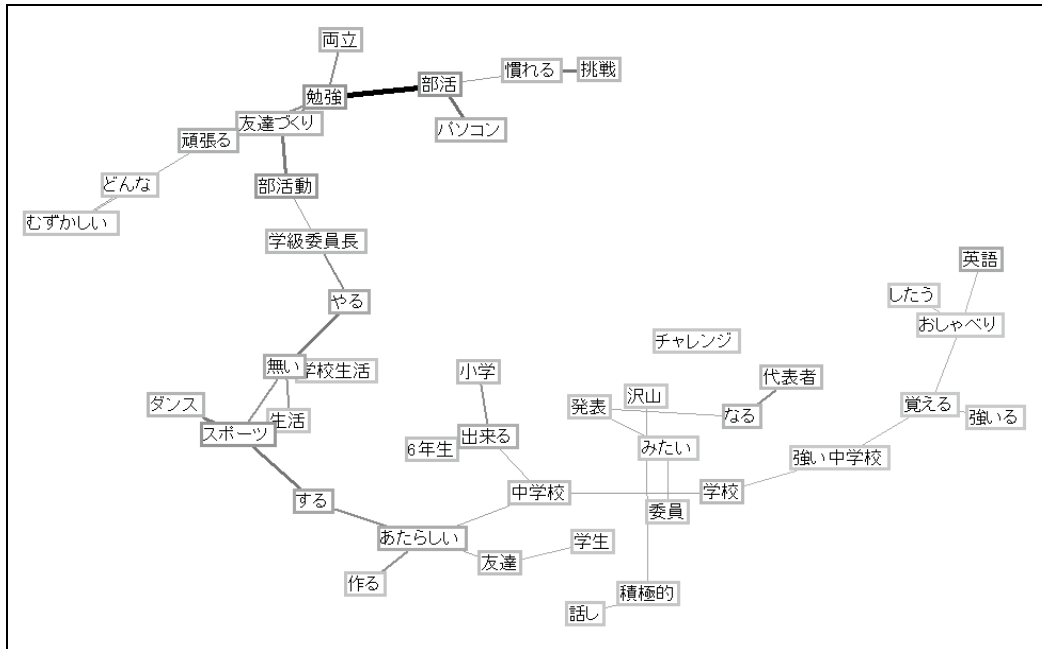
【図1】 第2因子と第4因子の事前・事後比較



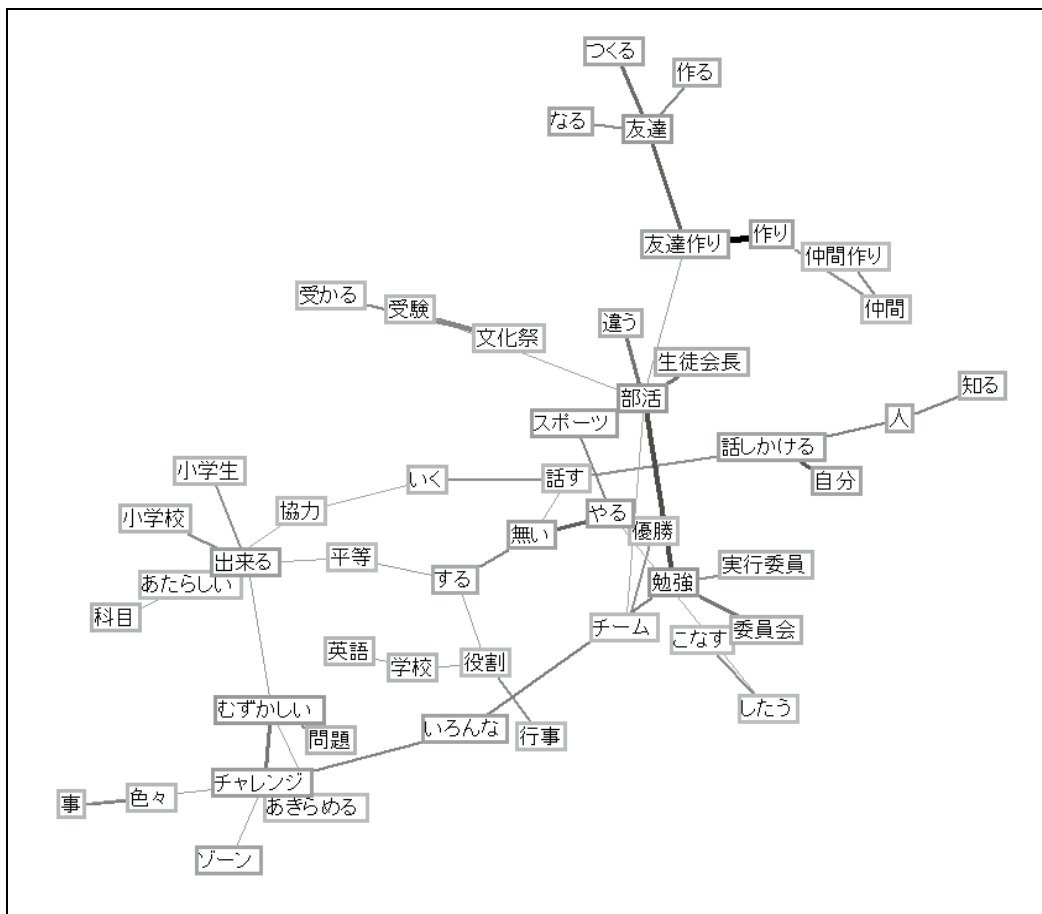
また、自由記述の2項目（「チャレンジしてみたいこと」「楽しみなこと」）をテキスト・マイニング解析によって分析したところ、事後においては、特に「難しいことへの諦めず

にチャレンジする」などの前向きな言葉や「たくさんの友達をつくる」など、全体的に対人関係に関する語彙が増えていました。【図2】

【図2】自由記述2項目の分析（テキスト・マイニング解析）



中学校でチャレンジしてみたいこと（事前）



中学校でチャレンジしてみたいこと（事後）

(5) 成果と課題

1) 成果

調査結果からスタートアップ・キャンプが中学校進学への不安軽減及び期待増加に一定の効果があつたことがわかりました。

これは、「3つの心理空間（安心できる空間，適度な負荷がかかる空間，自己制御できなくなる空間）」や「チャレンジバイチョイス（挑戦する内容は自分で決める）」の考え方に基づいて「チャレンジ」を定義し、『「チャレンジ」をキャンプのテーマとし，プログラムの冒頭において意識づけを行うとともに，各自がこのキャンプにおいてどのようなチャレンジをするのか，目標を設定させたこと』，また，『目標設定後，効果的な学びのサイクルといわれる「体験学習サイクル」に沿ってプログラムを展開するとともに，2日目以降，事前アンケートを基に，心理や考え方が近い子供たちを集めて班編成を行ったこと』が効果的であつたと思われます。

2) 課題

よりよい中学校生活を送るために自分の力で解決しようという子供たちにとって、「スタートアップ・キャンプ」は一定の効果がありました。一方，当事者意識をまだ持てていない子供たちには，期待増加や不安軽減があまり見られませんでした。よつて，指導に当たるスタッフには状況に応じたアプローチやファシリテーションが求められます。今後は，チームビルディングや体験学習サイクルといった PA の手法等に関する知識・技術を更に高める研鑽が必要です。

3) 今後の展望

今後は，この事業を継続的に実施，改善するとともに，モデルプログラムとして，近隣の公立施設に普及していきたいと考えています。また，この事業をファシリテートできる人材育成のために，指導者養成研修を計画的に実施していきたいと考えています。

2. 普及啓発事業（他施設との連携事業）

「木育キャンプ」

第1弾：令和元年11月9日（土）～11月10日（日）

第2弾：令和元年11月30日（土）～12月1日（日）

【担当 田尻 勝彦】



（1）背景

平成23年7月に閣議決定された「森林・林業計画」（林野庁）では、「森林環境教育等の充実」として、「森林の有する機能や木材利用の意義等に対する国民の理解と関心を高めるため、身近な自然環境である里山林を活用しつつ、関係府省が連携した青少年等の森林体験活動の機会の提供、指導者の育成、国民生活に必要な物資としての木の良さやその利用の意義を学ぶ活動である「木育」等を推進する」と定められており、「木育」の推進は政策課題であり、プログラムの開発は国立青少年教育施設に求められる役割といえます。

また近年、異常ともいえる気象が常態化しつつあり、災害を引き起こし人々の生活に甚大な被害をもたらしています。異常気象と環境問題は切り離すことができません。環境保全に寄与する態度を育成する環境教育は喫緊の課題といえ、国土面積の3/4を占める森林の役割を理解することは環境教育となります。

さらに、平成23年3月に長崎県農林部林政課・森林整備室が策定したながさき森林づくり推進プランでは、「森林環境教育の推進」として、以下のことを提示しています。

1. 森林・林業に関する県民の関心を高めるため、市町や森林所有者と連携し地域の里山など学習できる場の確保に努めます。
2. 次代を担う子どもたちに対し、学校関係者との協議によって、森林に親しみながら森林・林業を理解し、体験する教育を推進します。

このような国家の政策課題・県の政策課題を受けて、当施設でも木育に関するプログラムを開発し、平成26年度から教育事業「木育キャンプ」の開催を開始し、以降継続して実施をしています。

（2）趣旨

次代を担う子供たちに対し、森林に親しみながら森林林業を理解し、体験する教育を推進することで、自然に親しむ心情や社会性を育むとともに、持続可能な社会づくりの担い手の一助とします。

（3）事業の進め方

平成30年度から長崎県緑化推進協会と共催とし、長崎県県央振興局からは外部講師を招聘、県央木材協同組合には施設の見学の協力を得ることができました。

さらに、近年重要視されているESDの観点を取り入れました。具体的には以下の通りです。

1. 実際に木を間伐して、コースターを作ることにより、木材の有用性を体感し、持続可能な社会の実現のために、何ができるかを体感させること。
2. 他施設と共催することにより、幅広い地域の子どもにも木育を推進し、さらに他施設

の職員にも木育の有用性を体得してもらうこと。

他施設との共催として、佐賀県黒髪少年自然の家と長崎県立西彼青年の家と共催しました。この2施設と活動内容や運営方法の協議を進めながら事業を進めました。

(4) 事業の実施

① 対象・募集

小学校4・5年生 40名

- ② 参加者 第1弾 諫早青少年自然の家 11名 佐賀県黒髪少年自然の家 15名 合計 26名
第2弾 諫早青少年自然の家 33名 長崎県立西彼青年の家 13名 合計 46名

③ プログラム (第1弾, 第2弾ともに活動内容は共通)

1日目	2日目
10:30 受付	6:30 起床, 清掃・片付け
11:00 はじまりの会	7:30 朝食
12:00 昼食	9:00 製材所の見学
13:00 森林散策, 木こり体験	12:00 昼食
18:00 夕食	13:00 木製アスレチックで遊ぼう
19:00 丸太のコースター作り	14:00 終わりの会
20:30 1日のふりかえり	14:20 解散
21:00 入浴	
22:00 就寝	

④ 研修の様子



【はじまりの会, 森林について学ぼう】

まず、子供たちと一緒に森林について知っていることを話し合いました。そして、森林の機能について学びました。身の回りで使われている製品には木材が多く使われていることに気づきました。その後、森林には多くの働きがあることを学びました。



【森林散策, 人工林と天然林の観察】

人工林と天然林の境の地点で、森林の違いを観察しました。人工林の幹はまっすぐ伸びているが、天然林の幹はいろいろな伸び方をしていることを学びました。また、人工林の植生はほぼ一定であることに対し、天然林の植生は多様であることを学びました。



【森林散策，すだら森の観察】

すだらの森で，多良岳からの湧き水も飲みました。緑のダムとしての森の機能を体感しました。この湧水は，570年前の湧水であることを知り驚きました。



【木こり体験】

県央振興局の職員から，森林の役割や間伐の必要性の説明を受けました。光合成，酸素の供給，二酸化炭素の吸収，動物の住処，災害の予防，緑のダムとしての機能など，多くの森林の働きを学び，森林資源の重要性を皆で考えました。



その後，のこぎりの使い方，間伐するときの注意点，皮剥ぎの仕方，間伐した後の森林観察の仕方などの話を聞き，実際に木を切りました。全員で力を合わせて，木を倒しました。思ったよりも木を切るのには時間がかかり，木を切ることの大変さを実感しました。



【丸太のコースター作り】

間伐した木の活用の例として，間伐したひのきの木の皮をはいだ後，のこぎりを使って切り，丸太のコースターを作りました。自分たちで伐採した樹木を使っての参加者1人1人のオリジナルのコースターとなりました。



【製材所見学】

2日目は県央木材協同組合の職員から，製材所の中を案内してもらいました。間伐と植林の必要性の説明を受けた後，原木から材木・ウッドチップになる製材の工程を学びました。普段使われている木材がどのように作られているのかを初めて知りました。樹木は無駄なく利用されていることを知りました。



【キャンプのまとめ】

2日間の活動を通して，子供たちは森林の機能の大切さを学びました。自然の家にある木製アスレチックで遊び，木の大切さを実感しました。子供たちは，このキャンプを通して，森林を活用していくことの大切さや，今後どのように環境と向き合っていくかを学ぶことができました。

(5) 成果と課題

① 成果

参加した子供たちからは、「森林の大切さや丸太から木材になるまでなど、今まで気にしたことないことが知れて、とても良かった」「自然は人間だけでなく、動物たちにもいいこと、これからも森や自然を守っていけるようにしたいと思いました」などの声を聞くことができました。持続可能な社会の実現に向けた、参加者の行動化につながりました。

さらに、近隣の公立施設（西彼・日吉・黒髪）と連携することにより、他施設にも木育キャンプのプログラムを学んでもらうことができました。

昨年度と同様に、長崎県緑化推進協会、長崎県県央振興局林業課、県央木材協同組合の協力もあり、森林の役割、間伐の必要性など広く専門的に学ぶことができました。

② 課題と展望

本年度から他施設との共催を始めたため、活動時においては、当所の職員が主導で指導する場面が多くなりました。次年度以降は、共催施設の職員が指導する場を増やし、それぞれの施設でも実施できるよう活動内容や運営方法の協議を充実させていきたいと考えております。今後、「木育キャンプ」を実施する施設が増えることにより、森林環境教育がさらに推進することを願っております。

3. その他の事業

家族の体験活動推進プロジェクト「キャンプの日」

令和元年 10月～3月 第3日曜日

【担当 山口 圭吾, 園部 翔, 和泉 志帆】



(1) 事業の背景

長崎・佐賀「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会^{※1}では、子供たちに自然体験等の楽しさを体感させるとともに、保護者等に体験活動の重要性を普及啓発する事業「子ども体験フェスティバル」を、「体験の風をおこそう推進月間」に合わせて開催しています。これまでは長崎県のみで開催していましたが、令和元年度から隣県の佐賀県にも運動の輪を広げ、長崎・佐賀の両県で開催し、5日間でのべ2,791名が参加されました。

事務局である国立諫早青少年自然の家を会場としている同フェスティバル（土日の2日間開催）は、ハンモックやスラックライン、焚き火などが楽しめる「デイキャンプ^{※2}・ゾーン」を設けており、毎年多くの親子連れで賑わっています。また、土曜日の夕方から、テント泊や野外炊事などが楽しめる宿泊プログラムも大変好評で、近年のキャンプブームを感じています。

国立諫早青少年自然の家（以下、当所）は、このフェスティバルに取り組む中で「家族により多くの体験活動の機会を提供したい」「キャンプで家族団らんのひと時を過ごしてほしい」と考え、毎月第3日曜日を当所の「キャンプの日」として制定し、家族の体験活動を推進する新たな取組を令和元年10月から始めることとしました。毎月第3日曜日としたのは、当所が所在する長崎県と隣県の佐賀県がこの日を「家庭の日」としていることにちなんでいます。

※1 長崎・佐賀「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会は、長崎・佐賀県内の国公立青少年教育施設が中心となって、行政機関や学校・幼稚園、青少年団体等の連携を図り、地域の教育力を活用することで、子供や親子に体験活動の機会を提供するとともに、体験活動を推進する機運を高めることを目的としている団体です。

※2 デイキャンプとは、日帰りのキャンプのことです。

(2) 事業の進め方

① プログラム実施方法

当所が「デイキャンプ・ゾーン」のプログラムの順番を決めて活動するのではなく、実施可否も含めて各家族がプログラムの順番を選択できるようにしました。

② 事務手続きの簡素化

多くの方が参加しやすいように事前申し込みを不要にしました。

その中で、安全に実施するために必要な情報を当所ホームページに掲載しました。

③ 近隣施設「諫早市こどもの城」との連携

家族がより充実した体験を行えるように、諫早市こどもの城と連携して家族の体験活動の数を増やしました。

(3) 事業の実際

① 趣旨

家族で行う自然体験活動を通して、家族団らんのひと時を提供する機会とします。

② 期日

令和元年 10月～3月 第3日曜日

③ 対象

幼児や小学生等を含む家族

④ プログラム

「キャンプの日」のプログラムは、当所で開催している「子ども体験フェスティバル」をヒントに、日帰りと宿泊の2つのプランを用意しています。

ア. デイキャンプ体験（日帰り）

毎月第3日曜日の10時～15時にデイキャンプ・ゾーンを開放し、ハンモックやスラックラインのほか、たき火や自然物を用いたクラフトなどが自由に体験できるようにしています。

イ. テント泊体験（宿泊）

土曜日	日曜日
14:00 受付	7:00 朝食づくり
14:30 テント設営	9:00 片付け
16:00 夕食づくり	10:00 解散→デイキャンプにも参加可
20:00 たき火で団らん	

⑤ 活動の様子



デイキャンプ

様々な体験ができるようにデイキャンプ・ゾーンを作りました。

暖を取ったり、マシュマロや芋を焼いたりできるようにたき火を用意しました。

テント体験ができるように大人10名でも利用可能な大きなテントをご用意しました。

また、こどもの城と連携して、竹を使った食器づくりなどを行いました。

利用者には、用意されたものだけを楽しむのではなく、木登りや鬼ごっこなどをして遊んだり、四季折々の草木や生き物に触れてみたり、家族みんなで自然の中でゆっくりとした時間を過ごしました。



テント泊体験

デイキャンプだけでなく、前日の土曜日からアウトドアクッキングやテント泊も楽しめるプランも用意しました。テントや調理器具等の道具を無料でレンタルし、職員が手伝ったので、初心者の方も安心して活動できました。アウトドアクッキングでは、毎月ポトフやピザなどのメニューを決めて挑戦しました。

たき火を囲みながら「火があるとあたたかい」や「火花は風下に飛んでいくから危ない」など、体験から気付いたことを兄弟で教え合っている姿が印象的でした。

また、保護者の方から「普段は一緒にご飯をつくる機会はとれないので、時間を気にせず一緒にご飯をつくれて楽しい」という声を聞くことができました。



(4) 成果と課題

① 成果

「キャンプの日」の利用者数はしだいに増えており、徐々にこの取組が認知されてきています。参加者の中には、「私たち家族の恒例行事になっています」というリピーターの方々も現れていて、「キャンプの日」が定着していることが分かりました。

また、家族間の交流も生まれており、知らない子供同士が遊ぶ場や親同士が子育て相談をする場にもなりました。

テント泊体験では、参加準備をする中で家族内の会話が増えたとの声もあり、家族団らんの時間も作ることができたと考えています。

② 課題

テント泊体験に参加した家族からは、「もっと家族で過ごす時間が欲しかった」「もっと家族間交流の時間が欲しかった」という相反する意見があり、テント泊体験においては、事業趣旨を明確に説明する必要があると感じました。

③ 今後の展望

当所では、家族へ提供できる自然体験は数多くあります。次年度は、家族で取り組める「火おこし体験」や「自然散策」など、自然の家職員と一緒に取り組めるようなプログラムを更に展開していきたいと考えています。

令和元年度事業実績一覧

No	事業種類	看板事業	事業名	回数	対象	募集人数(人)	備考
1	地域力向上	看板	中1ギャップに対応したプログラム開発事業「スタートアップ・キャンプ」	1回	小学6年生	50	後援:長崎県教育委員会
2			生活・自立支援キャンプⅠ(ひとり親家庭の子ども支援事業)	全3回	ひとり親家庭の児童	各40	協力:県内の母子寡婦会
3			生活・自立支援キャンプⅡ(児童養護施設の子ども支援事業)	1回	児童養護施設の児童生徒	40	対象:済昭園
4			公立青少年教育施設とのプログラム共同開発事業	年3回程度	小学5年生	30	
5		新規	教科等に関連付けた体験活動プログラム開発事業	1回	中学1年生	130	協力:諫早市立明峰中学校
6	普及啓発		木育キャンプ	2回	小学4～5年生	各40	共催:長崎県緑化推進協会 長崎県西彼自然の家 佐賀県黒髪少年自然の家 協力:日吉自然の家
7			防災キャンプ	1回	小学4～中学3年生	30	共催:雲仙岳災害記念館
8			ジオキャンプ	1回	小学5～中学1年生	20	協力:島原半島ジオパーク協議会、コスモス花宇宙館
9			タラッキーキャンプ(初夏編)	2回	小学3～4年生	各60	
10			タラッキーキャンプ(秋編)	1回	小学1～2年生	60	
11			アドベンチャーキャンプ	1回	小学3～中学3年生	35	共催:とりかぶと自然学校
12			ファミリーキャンプ(初夏編)	1回	幼児や小学生のいる家族	60	
13			ドリーム教室(ソフトボール編)	1回	中学生のソフトボールチーム	200	
14			ドリーム教室(バスケットボール編)	2回	中学生のバスケットボールチーム	各240	
15			自然の家通学キャンプ	全2回	小学3～4年生	各60	
16			みんなで山をさるこう会	全8回	登山ができる方	各20	
17	指導者養成		NEALリーダー養成事業	1回	青少年教育・学校教育関係者、大学生	20	
18			グループづくりに役立つプログラム研修会(体験編)	1回	教員、施設職員、大学生等	30	共催:福岡県社会教育センター
19			グループづくりに役立つプログラム研修会(ステップアップ編)	1回	教員、施設職員、大学生等	30	後援:長崎県教育委員会 佐賀県教育委員会
20		新規	グループづくりに役立つプログラム研修会(フォローアップ編)	1回	教員、施設職員、大学生等	30	
21			自然体験活動ボランティア養成研修	1回	大学生、社会人	30	NEALリーダー・カリキュラムの読み替えあり
22			ボランティア自主企画事業	1回	大学生、社会人	30	
23			教員免許状更新講習	全4回	受講対象者	各30	共催:長崎大学

▼地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業・・・うち、当所が主導する事業を抜粋

24			子ども体験活動フェスティバル	1回	幼児や小学生のいる家族、学童クラブ等	2,000	
25			自然の家通学キャンプ	全2回	小学3～4年生	各60	
26			子どもゆめ基金助成金募集説明会	全2回	青少年団体関係者等	各20	協力:長崎県教育庁、佐賀県まなび課

▼その他の事業

27			イングリッシュキャンプ	1回	小学3・4年生	30	委託:諫早市教育委員会
----	--	--	-------------	----	---------	----	-------------

▼特別研修支援

28			長崎大学教育学部 野外体験リーダー研修	2回	長崎大学教育学部2年生	各120	共催:日吉自然の家
29			諫早市少年センター「適応指導教室」	年6回程度	適応指導教室に通う児童及び生徒	各10	
30			大牟田市「適応指導教室」	1回	適応指導教室に通う児童及び生徒	10	

Ⅱ 事業・管理運営の記録

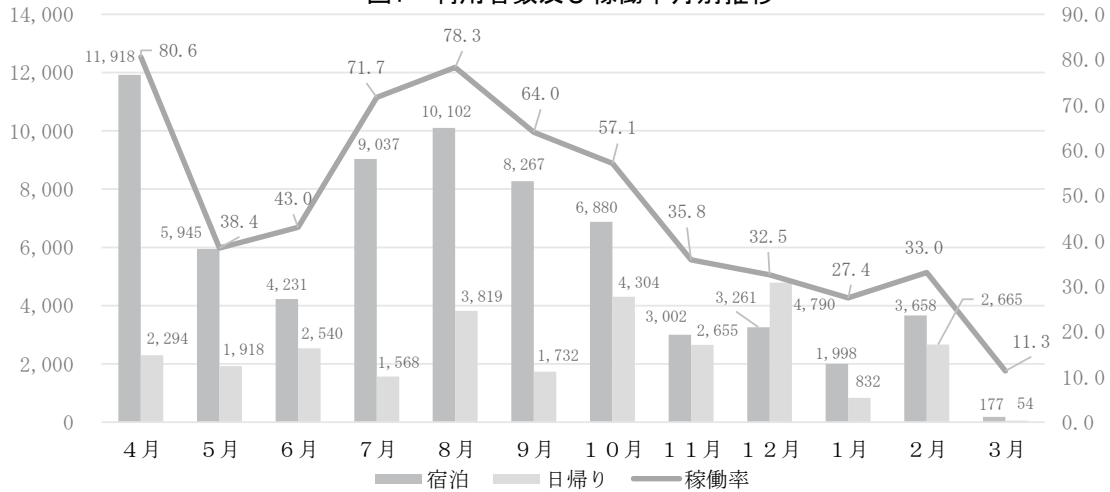
1. 令和元年度利用実績 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による受入れ停止：令和2年2月28日～3月24日

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
研修支援	宿泊	11,791	5,475	4,016	9,011	9,630	7,738	6,252	2,398	2,677	1,148	2,990	177	63,303
	日帰	902	551	1,085	1,233	1,736	511	1,328	964	3,968	192	496	54	13,020
	計	12,693	6,026	5,101	10,244	11,366	8,249	7,580	3,362	6,645	1,340	3,486	231	76,323
教育事業	宿泊	127	470	215	26	472	529	628	604	584	850	668	0	5,173
	日帰	1,392	1,367	1,455	335	2,083	1,221	2,976	1,691	822	640	2,169	0	16,151
	計	1,519	1,837	1,670	361	2,555	1,750	3,604	2,295	1,406	1,490	2,837	0	21,324
総合計	宿泊	11,918	5,945	4,231	9,037	10,102	8,267	6,880	3,002	3,261	1,998	3,658	177	68,476
	日帰	2,294	1,918	2,540	1,568	3,819	1,732	4,304	2,655	4,790	832	2,665	54	29,171
	計	14,212	7,863	6,771	10,605	13,921	9,999	11,184	5,657	8,051	2,830	6,323	231	97,647
稼働率(%)	80.6	38.4	43.0	71.7	78.3	64.0	57.1	35.8	32.5	27.4	33.0	11.3	51.8	

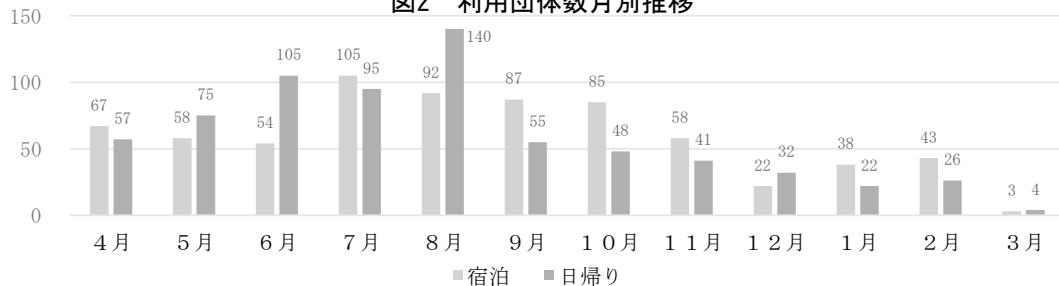
図1 利用者数及び稼働率月別推移



② 利用団体数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
研修支援	宿泊	65	53	49	104	89	80	78	51	16	30	38	3	656
	日帰	52	59	96	91	133	50	45	37	27	19	20	4	633
	計	117	112	145	195	222	130	123	88	43	49	58	7	1,289
教育事業	宿泊	2	5	5	1	3	7	7	7	6	8	5	0	56
	日帰	5	16	9	4	7	5	3	4	5	3	6	0	67
	計	7	21	14	5	10	12	10	11	11	11	11	0	123
総合計	宿泊	67	58	54	105	92	87	85	58	22	38	43	3	712
	日帰	57	75	105	95	140	55	48	41	32	22	26	4	700
	計	124	133	159	200	232	142	133	99	54	60	69	7	1,412

図2 利用団体数月別推移

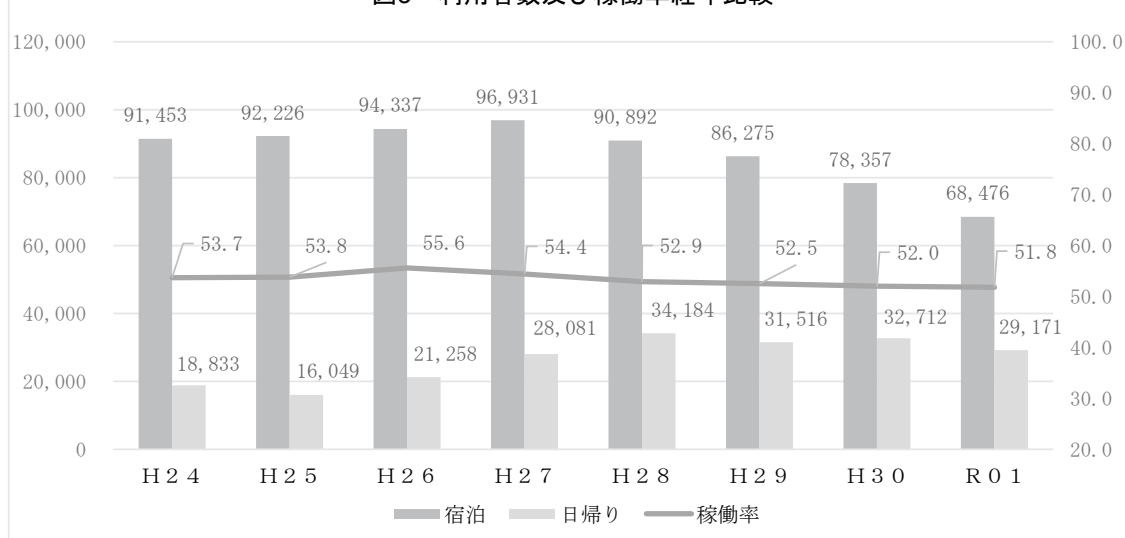


(2) 平成24年度から令和元(平成31)年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 0 1
研修支援	宿泊	86,926	89,276	90,810	92,643	84,729	79,545	71,904	63,303
	日帰	7,186	12,466	12,526	14,379	15,380	14,960	13,522	13,020
	計	94,112	101,742	103,336	107,022	100,109	94,505	85,426	76,323
教育事業	宿泊	4,527	2,950	3,527	4,288	6,163	6,730	6,453	5,173
	日帰	11,647	3,583	8,732	13,702	18,804	16,556	19,190	16,151
	計	16,174	6,533	12,259	17,990	24,967	23,286	25,643	21,324
総合計	宿泊	91,453	92,226	94,337	96,931	90,892	86,275	78,357	68,476
	日帰	18,833	16,049	21,258	28,081	34,184	31,516	32,712	29,171
	計	110,286	108,275	115,595	125,012	125,076	117,791	111,069	97,647
稼働率(%)		53.7	53.8	55.6	54.4	52.9	52.5	52.0	51.8

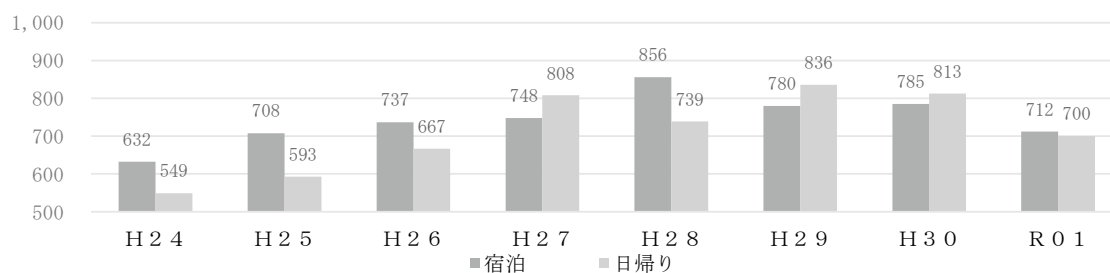
図3 利用者数及び稼働率経年比較



② 利用団体数

		H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 0 1
研修支援	宿泊	607	675	691	702	762	704	708	656
	日帰	533	574	634	746	674	774	732	633
	計	1,140	1,249	1,325	1,448	1,436	1,478	1,440	1,289
教育事業	宿泊	25	33	46	46	94	76	77	56
	日帰	16	19	33	62	65	62	81	67
	計	41	52	79	108	159	138	158	123
総合計	宿泊	632	708	737	748	856	780	785	712
	日帰	549	593	667	808	739	836	813	700
	計	1,181	1,301	1,404	1,556	1,595	1,616	1,598	1,412

図4 利用団体数経年比較



(3) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
幼稚園・保育園・こども園	4,761	4.9	86	6.1
小学校	12,858	13.2	239	16.9
中学校	6,179	6.3	48	3.4
高等学校	7,691	7.9	32	2.3
特別支援学校	647	0.7	31	2.2
大学・短大	1,148	1.2	11	0.8
その他の学校	1,628	1.7	17	1.2
青少年活動関係団体等	29,048	29.7	406	28.8
教育事業など	21,324	21.8	123	8.7
官公庁・企業	2,030	2.1	54	3.8
家族	733	0.7	109	7.7
その他	9,600	9.8	256	18.1
合計	97,647	100	1,412	100

- ・「その他の学校」とは、専修学校・専門学校、職業訓練校等の団体を区分しています。
- ・「その他」とは、上記以外の「教育関係施設」、「グループ・サークル」等の団体を区分しています。

図5 団体種別利用者数の割合

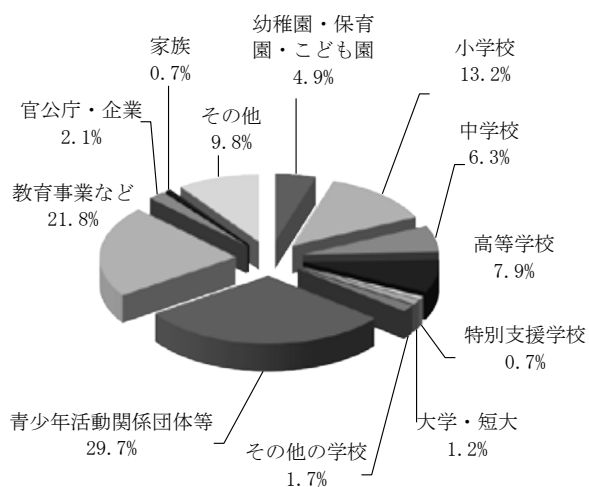
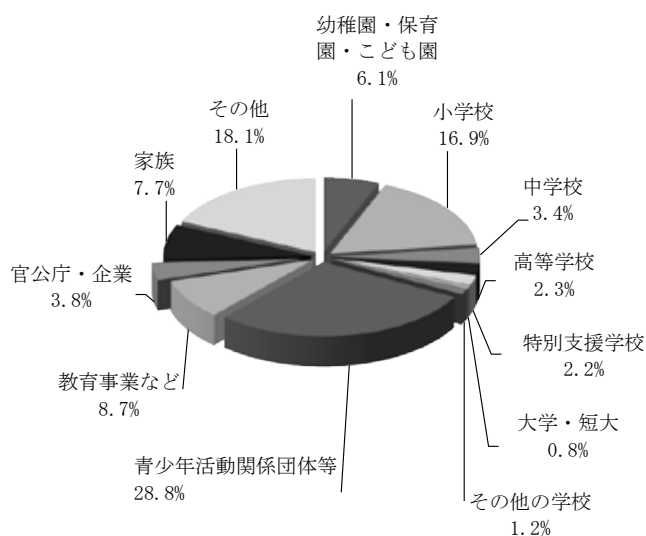


図6 団体種別利用団体数の割合



(4) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	58,646	78.3	711	80.2
福岡県	11,256	15.0	93	10.5
佐賀県	2,146	2.9	35	3.9
熊本県	1,500	2.0	13	1.5
その他	1,358	1.8	35	3.9
合計	74,906	100	887	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図7 県別利用者数の割合

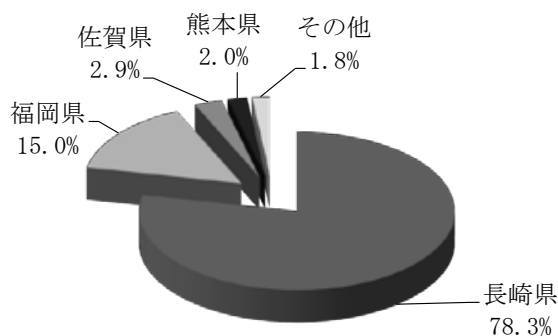
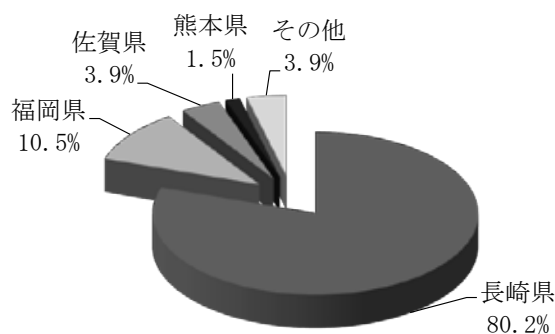


図8 県別利用団体数の割合



(5) 県ごとの団体種別利用実績

		幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	その他の	青少年	官公庁	家族	その他	合計
		こども園				学校	短大	の学校	活動団体	企業			
長崎県	利用団体数(団体)	56	66	20	13	14	6	13	266	33	83	141	711
	利用者数(人)	4,120	8,539	3,968	5,283	607	893	1,487	25,391	1,583	444	6,331	58,646
福岡県	利用団体数(団体)	1	34	2	5	0	0	1	19	7	6	18	93
	利用者数(人)	552	3,527	1,098	2,314	0	0	134	2,063	23	75	1,470	11,256
佐賀県	利用団体数(団体)	0	5	1	0	0	0	0	5	1	5	18	35
	利用者数(人)	0	428	384	0	0	0	0	571	144	60	559	2,146
熊本県	利用団体数(団体)	0	0	1	0	0	0	0	7	0	0	5	13
	利用者数(人)	0	0	642	0	0	0	0	530	0	0	328	1,500
その他	利用団体数(団体)	0	0	0	1	0	0	0	6	3	15	10	35
	利用者数(人)	0	0	0	48	0	0	0	229	240	165	676	1,358
合計	利用団体数(団体)	57	105	24	19	14	6	14	303	44	109	192	887
	利用者数(人)	4,672	12,494	6,092	7,645	607	893	1,621	28,784	1,990	744	9,364	74,906

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(6) 長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	24,164	41.2	297	41.8
長崎市	16,431	28.0	184	25.9
大村市	7,471	12.7	100	14.1
雲仙市	408	0.7	14	2.0
島原市	1,521	2.6	18	2.5
南島原市	910	1.6	11	1.5
佐世保市	1,069	1.8	14	2.0
時津町	2,983	5.1	20	2.8
長与町	1,298	2.2	15	2.1
その他	2,391	4.1	38	5.3
合計	58,646	100	711	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図9 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

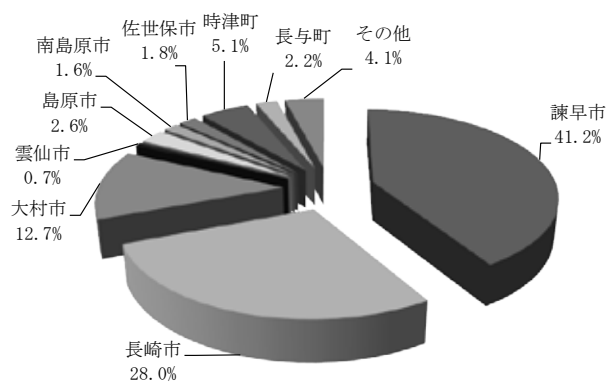
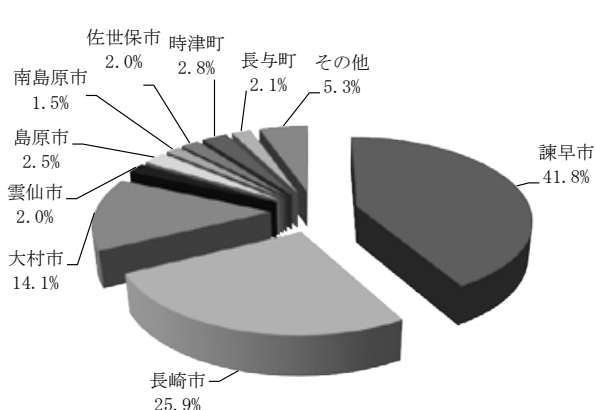


図10 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	その他の	青少年	官公庁	家族	その他	合計
		子ども園				学校	短大	の学校	活動団体	企業			
諫早市	利用団体数(団体)	14	29	16	3	3	1	4	111	9	43	64	297
	利用者数(人)	632	3,346	3,063	1,859	147	66	339	12,044	266	183	2,219	24,164
長崎市	利用団体数(団体)	26	6	3	4	2	4	3	73	6	23	34	184
	利用者数(人)	2,271	821	200	1,983	120	719	475	7,394	388	151	1,909	16,431
大村市	利用団体数(団体)	6	10	0	1	5	0	1	25	15	10	27	100
	利用者数(人)	619	1,865	0	171	136	0	81	2,296	825	62	1,416	7,471
雲仙市	利用団体数(団体)	3	1	0	0	0	0	0	5	0	1	4	14
	利用者数(人)	100	48	0	0	0	0	0	132	0	8	120	408
島原市	利用団体数(団体)	3	7	0	1	3	0	1	2	0	1	0	18
	利用者数(人)	187	606	0	168	161	0	174	221	0	4	0	1,521
南島原市	利用団体数(団体)	1	2	0	2	0	0	0	5	0	0	1	11
	利用者数(人)	24	128	0	450	0	0	0	304	0	0	4	910
佐世保市	利用団体数(団体)	1	0	0	0	0	0	0	10	0	1	2	14
	利用者数(人)	74	0	0	0	0	0	0	688	0	6	301	1,069
時津町	利用団体数(団体)	0	4	1	1	1	0	4	3	2	1	3	20
	利用者数(人)	0	684	705	154	43	0	418	791	88	12	88	2,983
長与町	利用団体数(団体)	1	5	0	0	0	0	0	1	1	3	4	15
	利用者数(人)	125	909	0	0	0	0	0	54	16	18	176	1,298
その他	利用団体数(団体)	1	2	0	1	0	1	0	31	0	0	2	38
	利用者数(人)	88	132	0	498	0	108	0	1,467	0	0	98	2,391
合計	利用団体数(団体)	56	66	20	13	14	6	13	266	33	83	141	711
	利用者数(人)	4,120	8,539	3,968	5,283	607	893	1,487	25,391	1,583	444	6,331	58,646

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強会・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(8) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	7,974	22.8	633	49.1
1泊2日	18,317	52.4	493	38.3
2泊3日	7,552	21.6	133	10.3
3泊4日	763	2.2	19	1.5
4泊5日	279	0.8	7	0.5
5泊以上	50	0.2	4	0.3
合計	34,935	100	1,289	100

図11 宿泊日数別利用者数の割合

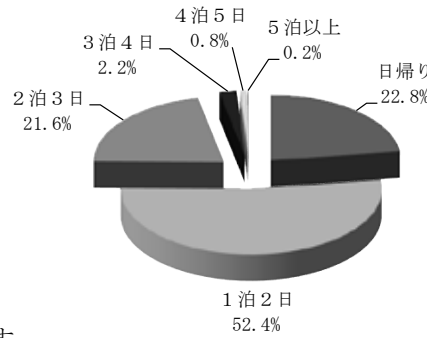
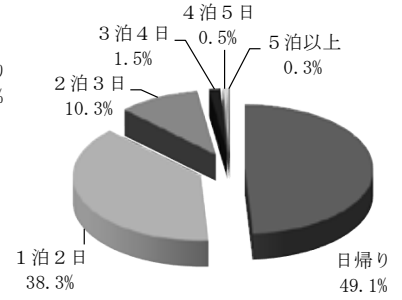


図12 宿泊日数別団体数の割合



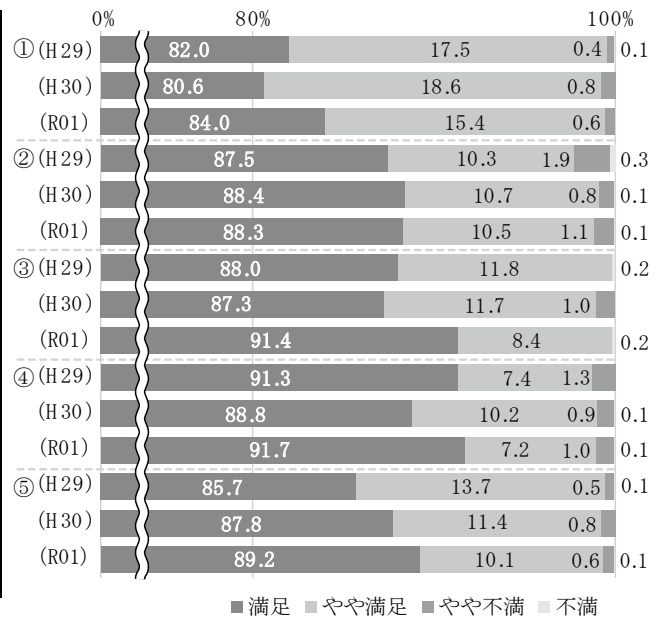
・利用者数は、実利用者数を用いて算出しています。
 ・当所主催の教育事業を除いています。

(9) 利用者アンケート

		満足	やや満足	やや不満	不満
①事前の情報提供に関する満足度	H29	82.0	17.5	0.4	0.1
	H30	80.6	18.6	0.8	0.0
	R01	84.0	15.4	0.6	0.0
②職員等の教育的支援に関する満足度	H29	87.5	10.3	1.9	0.3
	H30	88.4	10.7	0.8	0.1
	R01	88.3	10.5	1.1	0.1
③活動プログラムに関する満足度	H29	88.0	11.8	0.0	0.2
	H30	87.3	11.7	1.0	0.0
	R01	91.4	8.4	0.0	0.2
④職員の対応に関する満足度	H29	91.3	7.4	1.3	0.0
	H30	88.8	10.2	0.9	0.1
	R01	91.7	7.2	1.0	0.1
⑤施設を利用したの総合的な満足度	H29	85.7	13.7	0.5	0.1
	H30	87.8	11.4	0.8	0.0
	R01	89.2	10.1	0.6	0.1

(%)

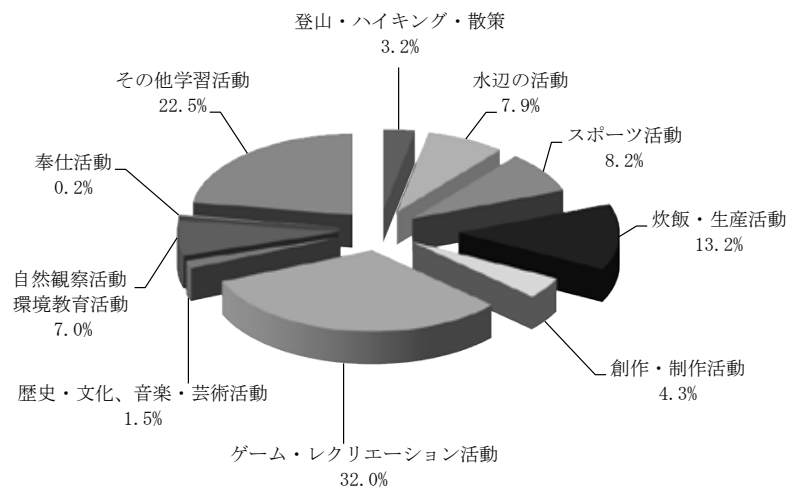
図13 利用者アンケート経年比較



(10) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
登山・ハイキング・散策	62	3.2
水辺の活動	154	7.9
スポーツ活動	161	8.2
炊飯・生産活動	258	13.2
創作・制作活動	84	4.3
ゲーム・レクリエーション活動	625	32.0
歴史・文化、音楽・芸術活動	30	1.5
自然観察活動・環境教育活動	137	7.0
奉仕活動	4	0.2
その他学習活動	440	22.5
合計	1,955	100

図14 活動プログラム別利用割合



(11) 開所からの利用状況

和暦	西暦	宿 泊		日 帰		総 計		
		団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数	
昭和	53	1978	163	22,453	—	—	163	22,453
	54	1979	428	86,601	—	—	428	86,601
	55	1980	489	117,570	—	—	489	117,570
	56	1981	466	138,144	—	—	466	138,144
	57	1982	428	142,494	—	—	428	142,494
	58	1983	460	146,857	—	—	460	146,857
	59	1984	406	151,007	—	—	406	151,007
	60	1985	455	153,593	—	—	455	153,593
	61	1986	465	156,750	—	—	465	156,750
	62	1987	492	157,146	—	—	492	157,146
	63	1988	565	158,195	—	—	565	158,195
平成	元	1989	585	158,789	—	—	585	158,789
	2	1990	579	159,933	—	—	579	159,933
	3	1991	602	160,610	—	—	602	160,610
	4	1992	622	153,276	—	—	622	153,276
	5	1993	603	141,314	—	—	603	141,314
	6	1994	643	127,045	21	1,705	664	128,750
	7	1995	712	124,072	22	1,517	734	125,589
	8	1996	731	124,034	17	1,852	748	125,886
	9	1997	636	113,898	12	645	648	114,543
	10	1998	622	108,750	27	1,110	649	109,860
	11	1999	585	104,592	31	1,706	616	106,298
	12	2000	560	98,888	42	2,228	602	101,116
	13	2001	518	91,016	127	5,245	645	96,261
	14	2002	599	94,632	273	5,996	872	100,628
	15	2003	695	102,799	400	7,381	1,095	110,180
	16	2004	634	97,555	514	8,841	1,148	106,396
	17	2005	714	96,400	571	9,668	1,285	106,068
	18	2006	664	95,838	626	6,854	1,290	102,692
	19	2007	619	93,318	570	7,352	1,189	100,670
	20	2008	711	93,427	702	12,395	1,413	105,822
	21	2009	731	93,102	614	15,549	1,345	108,651
	22	2010	650	96,890	580	10,097	1,230	106,987
	23	2011	653	92,634	613	17,861	1,266	110,495
	24	2012	632	91,453	549	18,833	1,181	110,286
	25	2013	708	92,226	594	16,051	1,302	108,277
	26	2014	737	94,337	667	21,258	1,404	115,595
	27	2015	748	96,931	808	28,081	1,556	125,012
	28	2016	856	90,892	739	34,184	1,595	125,076
	29	2017	780	86,275	836	31,516	1,616	117,791
	30	2018	785	78,357	813	32,712	1,598	111,069
令和	元	2019	712	68,476	700	29,171	1,412	97,647
	計		25,443	4,752,569	11,468	329,808	36,911	5,082,377

※昭和53年度～平成5年度の利用者数は現行とカウントの仕方が異なっていたために、現行の方法に合わせて試算しています。

(12) 傷病発生状況

① 内科系

	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	生理痛	脱水	倦怠感(だるさ)	その他	合計
登山・ハイキング	1	0	0	1	2	0	1	1	0	0	2	1	0	9
オリエンテーリング・ウォークラリー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
スポーツ活動	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
沢登り・沢遊び	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
野外炊事	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
キャンプファイヤー・キャンドルのつどい	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
創作活動(クラフト等)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
研修・学習活動	3	0	1	0	1	1	4	0	8	1	0	3	0	22
自由時間	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
つどい(朝・夕)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
清掃	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
食事	4	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	1	10
入浴	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
就寝時間(起床時も含む)	3	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	7
移動中	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
入所前	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	20	2	1	1	11	5	8	5	10	1	2	10	4	80

図15 状況別傷病発生率(内科系)

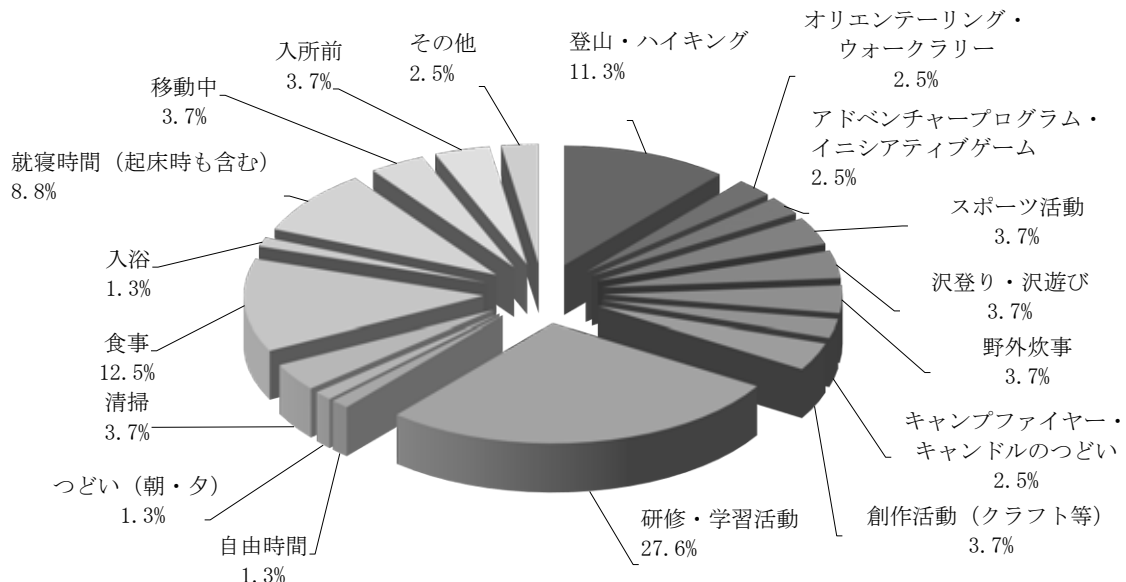
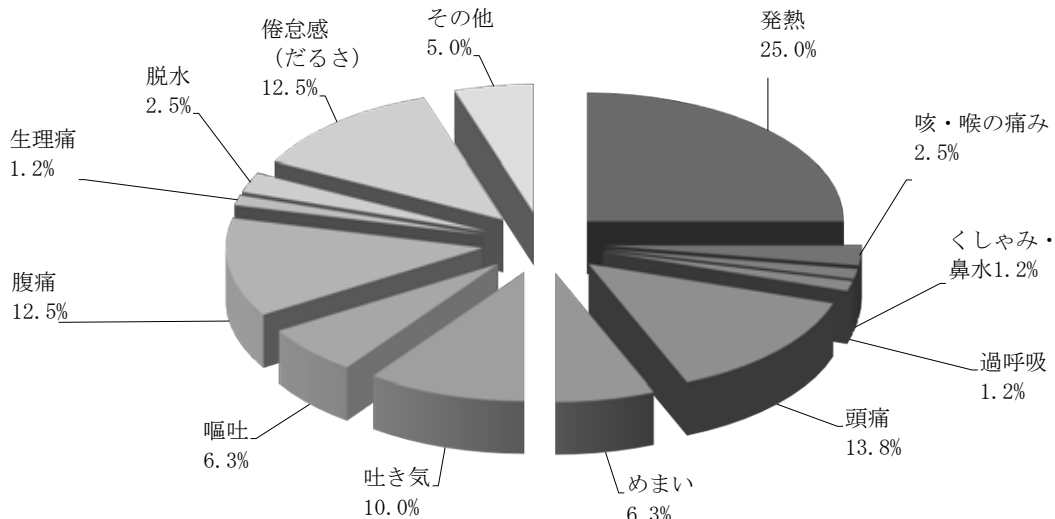


図16 傷病種類別発生率(内科系)



② 外科系

	きり傷	すり傷	やけど	打撲	突き指	ねんざ	骨折	虫刺され	その他	合計
登山・ハイキング	0	0	0	0	1	4	0	0	1	6
オリエンテーリング・ウォークラリー	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
スポーツ活動	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4
沢登り・沢遊び	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
野外炊事	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
研修・学習活動	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
自由時間	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
入所前	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	2	3	1	3	2	7	1	1	4	24

図17 状況別傷病発生率（外科系）

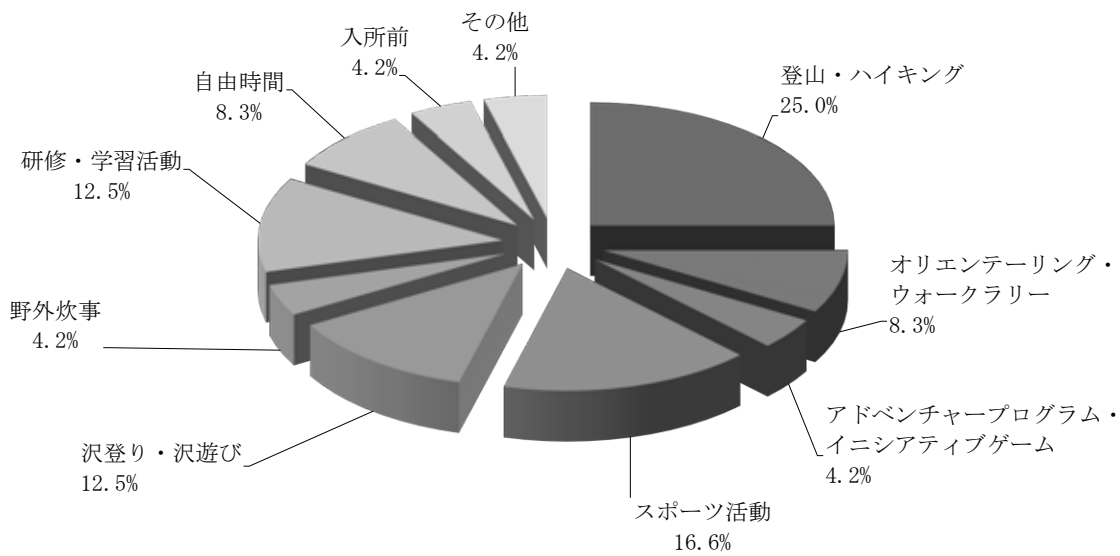
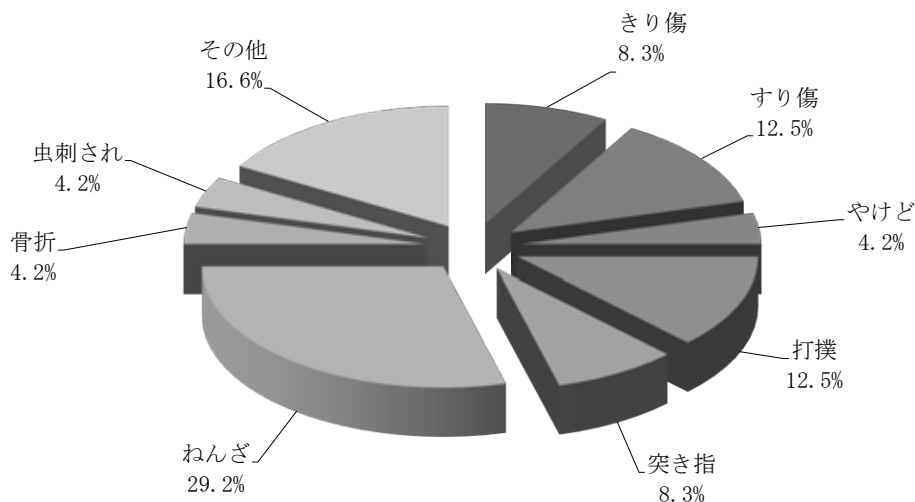


図18 傷病種類別傷病発生率（外科系）



2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために (主な工事・施設保全・物品購入の状況)

(1) キャンプ村広場の整備

キャンプなどの自然体験活動が子育て世代の家族の間で盛り上がりを見せる中、当所においても家族の利用が増加傾向にあり、家族でキャンプを楽しむ姿も多くみられるようになってきました。

しかしながら、当所のキャンプ村は通路が舗装されておらず、枯死した松等がテントサイトからの視界を遮っているなど、その整備が課題となっていました。



そこで今回、斜面に位置する常設テントサイトの一部を伐採・抜根し、整地した後、新たに「いこいの広場」として鬱蒼としたテントサイトを明るく開放感のある環境へと整備しました。



整備を行ったことで車での通行も容易となり、広場の隣に駐車することも可能となりました。今後「キャンプの日」の周知・案内を行うなどして家族等のさらなる利用促進を図ってまいります。

(2) キャンプ用品の充実

キャンプ村広場の整備に合わせ、より充実したキャンプに係るプログラムの提供を可能とするため、家族が利用しやすいようなタイプの大型テントや各種キャンプ用品の充実を図りました。



(3) ひばり棟2階手洗い場壁面改修

ひばり棟2階手洗い場の壁面について、タイルの破損が目立っていたため、パネルタイプの壁面に改修を行い、より清潔感のある空間の提供が可能となりました。



(4) 防犯カメラの設置

より利用者の方が安心して自然の家での宿泊を楽しんでいただくために、浴室前廊下等に防犯カメラを設置し、防犯体制の強化を図りました。



(5) 環境学習館入口階段の手すり改修

環境学習館への入口へ通じる階段の手すりについて、経年劣化により錆が目立ち、耐久性も弱まっていたことから、職員の手により手すりの補修及び塗装を行いました。



(6) 野外炊事用ごみ置き場の地面補修

レストラン横にある野外炊事ごみ用の倉庫付近で地面の陥没が目立ち、このままだと利用者の転倒等のリスクが懸念されたことから、陥没箇所の補修等を行いました。



(7) 地上型重油タンクへの移設

これまで重油については地下タンクにて貯蔵していましたが、危険物の規制に関する規則等の一部改正にあわせて、本館・別館ともに地上型の重油タンクへ移設を行いました。



3. 施設業務運営委員会

(1) 委員名簿

	氏名	職名
1	大野 幸雄	諫早市PTA連合会会長
2	小原 達朗	長崎大学名誉教授
3	角野 良介	大村市立旭が丘小学校校長
4	近藤 真紀	福岡県教育庁教育振興部社会教育課主幹社会教育主事
5	坂井 広典	佐賀県民環境部まなび課生涯学習・体験担当係長
6	佐藤 小百合	諫早市教育委員会生涯学習課課長
7	高比良 由紀	長崎新聞社諫早支局支局長
8	中尾 和弘	長崎県青少年教育施設協議会会長
9	野口 美砂子	NPO法人インフイーニティー理事長
10	栢山 ゆずる	長崎県福祉保健部こども政策局こども未来課指導主事
11	松尾 孝一	一般財団法人長崎県子ども会育成連合会事務局長
12	水田 明光	社会福祉法人西崎福祉会ながた保育園園長
13	山口 千樹	長崎県教育庁生涯学習課課長

(委員氏名50音順)

平成30年度から、地域における体験活動の充実を図るとともに、地域と施設が一体となった管理運営を目指すため、地域の青少年教育団体・NPO・企業・自治体等多様な主体が、施設の管理運営や事業の企画・実施へ参画する形の「運営協議会」方式を導入しました。

また、令和元年度から施設業務運営委員会のもとに、「事業推進・連携部会」及び「利用促進・広報部会」を設けることとしました。

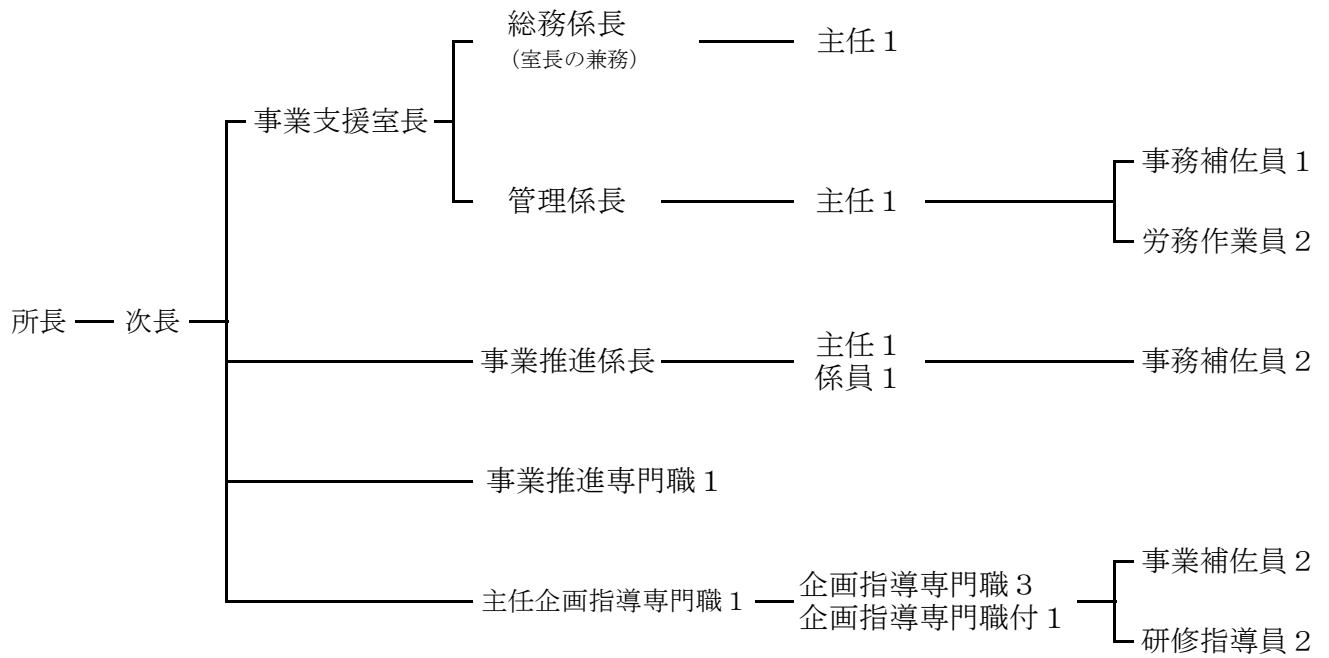
(2) 開催状況

令和元年度は、施設業務運営委員会を下表のとおり開催しました。

	期日	議題
第1回	令和元年 6月17日	(1) 令和元年度計画について (2) 今後の予定について
第2回	令和 2年 2月13日	(1) 令和元年度事業等報告 ①事業概要 ②利用概要 ③施設管理状況 (2) 専門部会の設置について

4. 組織図・職員名簿(令和2年3月現在)

(1) 組織図



所長 1	次長 1	室長 1	係長 2	主任専門職 1	専門職 4	専門職付 1	主任 3・係員 1	非常勤職員 9	合計 24
------	------	------	------	---------	-------	--------	-----------	---------	-------

(2) 職員名簿

職名	氏名
所長	内山祐二郎
次長	力丸 資

職名	氏名	
事業支援室長(兼)総務係長	平野 悟	
総務係主任・係員	(主任)高木将秀	
管理係長	徳永良宏	
管理係主任・係員	(主任)吉田 誠	
事務補佐員	中道あゆみ	
労務作業員	小森庄二	辻 正則

職名	氏名
事業推進専門職	東島憲之

職名	氏名	
事業推進係長	上戸正仁	
事業推進係主任・係員	(主任)樋口達也	和泉志帆
事務補佐員	中島康子	高谷直美

職名	氏名		
主任企画指導専門職	原 将成		
企画指導専門職	田尻勝彦	大嶋和幸	松元延行
企画指導専門職付	園部 翔		
事業補佐員	宇都志津佳	山崎瑠香	
研修指導員	岡部一樹	大串陽水	

いさはや自然の家 2020年度事業計画一覧



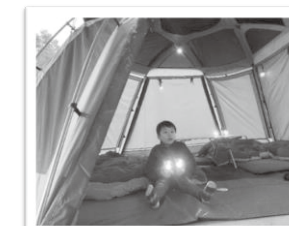
【小学生・中学生を対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	タラッキーキャンプ (初夏編)	①5/9(土)～5/10(日) ②5/16(土)～5/17(日)	小学3・4年生	各40名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通して、自然に親しむ心情や社会性を育む。
2	タラッキーキャンプ (秋編)	9/12(土)～9/13(日)	小学1・2年生	60名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通して、自然に親しむ心情や社会性を育む。
3	自然の家通学キャンプ	①11/5(木)～11/7(土) ②11/12(木)～11/14(土) ③11/26(木)～11/28(土) ④12/3(木)～12/5(土)	小学3・4年生	各60名程度	自然の家で共同生活を送りながら学校に通学する活動を通して、「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身につける契機とするとともに、メディア依存対策の一助とする。
4	木育キャンプ	①10/31(土)～11/1(日) ②11/7(土)～11/8(日)	小学4年生～ 中学1年生	40名程度	災害から身を守るために必要な知識・技能を身につけ、防災に関して真摯な態度の育成を図る。災害時に想定される避難所生活の疑似体験を通して、主体的に判断し行動する力や、互いに助け合う心情をはぐくむ。
5	アドベンチャーキャンプ	8/18(日)～8/24(土)	小学4年生～ 中学3年生	30名程度	小学校3年生から中学校3年生までの子供たちが、非日常的な環境における長期の自然体験活動を通して、反響と協力することの大切さに気付くとともに、自然に親しむ心や感謝の心をはぐくむ。また、防災や環境の視点を取り入れた体験を通して、持続可能な社会の実現を目指す。さらに、挑戦的な活動を行うことで、自己の体力の向上を図る。
6	スタートアップキャンプ	11/21(土)～11/23(月・祝)	小学6年生	50名程度	中学校への進学を自前に控えた子供たちが、自然の家で共同生活を送りながら交流を深め、進学への不安を払拭し、よりよい新生活を送れるようにする。



【ファミリーを対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	キャンプの日	毎月第3土 テント泊 毎月第3日 デイキャンプ	幼児や小・中・高 ・大学生のいる家 族	土曜は4家族 日曜は制限なし	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。



【どなたでも参加可能な事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	子ども体験フェスティバル	10/24(土)～10/25(日)	日帰りどなたでも 宿泊:子どものいる 家族	制限なし 30家族程度	様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取組を通して、関係団体との連携をより一層緊密にし、長崎県下各市町を中心に、地域における体験活動の定着・発展を推進する。
2	みんなで山をさるこう会	①6/23(火)～6/24(水) ②9/15(火)～9/16(水) ③12/22(火)～12/23(水) ④3/2(火)～3/3(水)	登山ができる方	各20名程度	美しい自然の残る多良山系への登山を通して、自然に親しむ。また、参加者同士の親睦を深め、生きがいと健康づくりの一助とする。

【スポーツ団体を対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	レベルアップ ソフトボール教室	12/12(土)～12/13(日)	中学生の 女子ソフトボール チーム	200名程度	ソフトボールの実業団チームの監督・選手による講習を通じて、個人やチームのレベルアップを図るとともに、チームを越えた子供同士の交流を図る。
2	バスケットボール フェスティバル	①男子 11/28(土)～11/29(日) ②女子 2/27(土)～2/28(日)	中学生の バスケットボール チーム	各240名程度	バスケットボールの講習会と大会を通じて、個人技術のレベルアップとチームワークの向上を図るとともに、チームを越えた子ども同士の交流を図る。
3	諫早自然の家杯 ドッジボール大会	3/6(土)～3/7(日)	小学生の ドッジボール チーム	240名程度	ドッジボール大会を通して、チームワークを高めたり、個人技能のレベルアップを図ったりするとともに、他のチームとのレクリエーションや共同生活体験により、チームの枠を越えた子供同士の交流を図る。



【指導者を養成する事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	グループをチームに役立つ プログラム研修会 (体験編)	①長崎編 5/23(土) ②佐賀編 5/30(土) ③福岡編 6/27(土)	教員 施設職員 大学生等	各30名程度	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、体験教育・アドベンチャー教育の必要性や有効性を実感させる。
2	グループをチームに役立つ プログラム研修会 (理論編)	7/23(木・祝)～7/25(土)		30名程度	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験と理論講習を通して、体験教育・アドベンチャー教育の理論や手法に関する理解を深める。
3	自然体験活動ボランティア 養成研修	6/20(土)～6/21(日)	大学生、社会人	30名程度	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。
4	NEALリーダー養成事業	10/10(土)～10/11(日)	青少年教育 学校教育関係 大学生	20名程度	自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論I)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。



国立諫早青少年自然の家

〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1
 Tell: 0957-25-9111 FAX: 0957-25-9115
 E-Mail: isahaya-sui@niye.go.jp

森と溪流のイサハヤ
 人づくり・仲間づくりのイサハヤ



マスコットキャラクター
 ヤマネのタラッキー

令和元年度 国立諫早青少年自然の家 所報
令和2年4月

編集・発行 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家
〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1
TEL:0957-25-9116 FAX:0957-25-9115
URL: <https://isahaya.niye.go.jp/>
E-mail: isahaya-so@niye.go.jp

「早寝早起き朝ごはん」国民運動

地域社会・学校・家庭が一体となって、心身ともに健康な子供たちの育成を目指す運動です。

- 望ましい生活習慣の育成
 - 生活リズムの重要性の再認識
 - 学習意欲・体力・気力の向上
 - 地域ぐるみで支援するための環境整備
- シンボルマークの使用など、詳しくは全国協議会のホームページをご覧ください。

早寝早起き朝ごはん

検索



「体験の風をおこそう」運動

社会が豊で便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。詳しくは「体験の風をおこそう」運動のホームページをご覧ください。

体験の風をおこそう

検索



【多良山系・五家原岳】

「国立諫早青少年自然の家」が位置する「多良山系・五家原岳」は、山頂から東に「有明海」西に「大村湾」南に「橘湾」と三つの海、諫早干拓、雲仙岳、周辺の美しい山なみが眺望できる景観の地です。

周辺には、豊かな水に育まれた針葉樹林が広がり、多くの野鳥や動物たちが生息しております。

また、市街地より比較的近距离で交通アクセスにも恵まれながら、深い暗闇に包まれた大自然の中で美しい星空を観測できる場所は国内でも稀で、貴重な観測ポイントとされています。

「国立諫早青少年自然の家」施設内では、特に自然体験・生活体験施設である「キャンプ村」が、森林内に位置するため、「流れ星を観測できた」との報告が多く聞かれるスポットのひとつです。